

令和7年9月12日

## 令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
附属浜松小学校（外 校）	静岡大学教育学部	国立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
附属浜松小学校	<a href="https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/">https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
附属浜松小 学校	<a href="https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/">https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/</a>	<a href="https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/">https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamasho/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6/</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

## <特記事項>

本特例を実施している浜松小においては、年度当初に学校説明会を実施し、本校の教育活動、教育課程（特別の教育課程含む）に関する説明を実施し、教育課程全体を通して、「自己の在り方・生き方」を拡げ、深めること、基盤となる道徳性の育成することを伝えている。

### 3. 実施の効果及び課題

#### （1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例を実施している浜松小においては、教育課程、学校教育目標「自己を磨き 他とともに よりよい未来を創造する子の育成」の具現化のために、教育研究と関連させ、小中一貫エージェンシーベイスカリキュラムを構築、実施することを通して、子どもが、教育課程全体で、「自己の在り方・生き方」を拡げ・深めることをめざしている。

当校では、エージェンシーと単に主体性と捉えるのではなく、「何をなすべきか」を考え、目的を問い合わせ、見いだした意味から、本質や周りの「ひと・もの・こと」との関係性をよりよく再構成するプロセスの中で発揮される力と捉えている。

そこで、本特例により、カリキュラムにおける領域間の横断・往還を活性化させられるような教育課程を編成している。

#### （2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している浜松小学校においては、学校評価（11月実施、対象：児童、保護者、教職員）において、当校の教育活動が子どもの主体性を大切に実践・実施されている点に、評価を得られている。

また、教育研究発表会では、県内外から教育関係者を対象に、研究授業を実施した。当校のめざす教育理念に対して、参加者から多くの賛同を得た。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、教科教育を超えた教育課程全体で、小中一貫エージェンシーベイスカリキュラムを実施していくという方向で本特例の改善を図ることが必要と考えられる。そのために、教育研究とより関連を図り、道徳領域や特別活動領域、総合的な学習の時間領域での実践を積んでいくことが必要であると考える。